

基本情報

施設名	わおわお保育園
所在地	横浜市鶴見区矢向 1-4-32
電話番号	045-583-8010
評価年度	平成 30 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

評価方法

自己評価	
(実施期間) 平成 30 年 10 月 23 日～ 平成 31 年 1 月 28 日	全職員評価
評価調査員による評価	
(実施期間) 平成 31 年 2 月 19 日 平成 31 年 2 月 20 日	評価調査者 2 名が、2 日間を通し、保育園内の視察、保育内容、園児の観察、書類確認および園長、職員との面接、ヒアリングにより評価を行いました。乳児、幼児の食事の観察を行い、保育環境、子どもの遊びの様子および延長保育の観察を実施しました。
利用者家族アンケート	
(実施期間) 平成 30 年 11 月 1 日～ 平成 30 年 11 月 30 日	保護者による郵送
利用者本人調査	
(実施期間) 平成 30 年 9 月 12 日 平成 30 年 9 月 13 日	1 歳～5 歳児対象に 1 日の生活を通して観察を行い、園生活、食事、遊び等を場面観察から考察をまとめました。

第三者評価結果報告書

《総括》

対象事業所名	わおわお保育園
経営主体(法人等)	社会福祉法人 わおわお福祉会
対象サービス	保育所
事業所住所等	横浜市鶴見区矢向 1-4-32
設立年月日	平成 16 年 4 月 1 日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

《総合評価》

【わおわお保育園の立地・概要】

●わおわお保育園は、JR南武線尻手駅から徒歩15分程度の住宅街に位置しています。江ヶ崎、矢向地域は、鶴見川東岸にある横浜市の飛び地的な地域として知られた所で、鶴見川、横須賀線、第2京浜に囲まれ、横浜市とのアクセスよりも川崎市幸区とのアクセスが便利な地域でもあります。この辺りは大手企業の工場群の海外移転等の跡地にマンションや一戸建て、集合住宅等が建ち並び住宅街に様変わりし、ベッドタウンとして人口も増えて保育園の需要も増えており、将来性のある地域です。近隣には発展の象徴として人口増の需要に応えるよう区立矢向中学校や矢向一丁目公園、汐田総合病院、うしおだ老健やすらぎ、介護老人保健施設わかたけ鶴見等の他、保育園も地区内に数件あり、生活しやすく整備された地域です。

●わおわお保育園は、運営主体は社会福祉法人わおわお福祉会（以後、法人という）です。法人は関連の総合コンサルティング株式会社大川と提携して保育事業と他の事業を展開し、保育事業として横浜と川崎に保育園7園を運営しています。わおわお保育園は、定員150名（0歳～5歳児）の大規模保育園であり、園舎は中央に大きなホールと左右に保育室を構えた鉄筋2階建てで、園舎の前には人工芝が敷き詰められた広い園庭を有し、園庭には木で造られた大型固定遊具の滑り台・ジャングルジム、鉄棒を設備し、藤棚で日除けされた砂場等を設け、テーマカラーで彩られた門構えと定着したロゴ、大きな窓を施した伸びやかな園舎が印象的な保育園です。開設は平成16年4月1日で15年目を迎える地域に根付いた保育園です。

【わおわお保育園の方針】

●法人の経営理念として、「子どもの笑顔で世界をかえる」を謳い、保育理念に「ほめて・みとめて・はげまして」を掲げ、保育理念に沿い“やる気を育て、自分で考えて行動できる子どもを育てる”とした保育を目指しています。保育目標に7項目を挙げ、1.「人と人との信頼」、2.「正しい習慣」、3.「創造性の芽ばえとやる気」、4.「もじ・かず・ことばへの興味や関心」、5.「元気で明るく、笑顔であいさつできる子ども」、7.「優しい気持ちを養い、忍耐力・正義感・自制心をもつ豊かな心」、7.「命の尊さを知らせ、慈しむ心と感謝の心」に置き、保育目標の実践に努めています。人間形成の最重要な時期に、素直な心を持って物事の道理と責任をわきまえた子ども像を目指し、日々保育活動に取り組んでいます。

《優れている点》

1. 【0歳～2歳児の保育士担当制の推進】

●わおわお保育園では、0歳～2歳児の保育士担当制を採用しています。0歳～2歳児クラスの低年齢の時代は「愛着関係からの自己表現」が非常に重要で、愛着関係から自己表出が十分にできるよう、保育士担当制を推進して子どもと保育士の基本的信頼感を養うことを大事にしています。愛着関係の基礎作りの観点から特に、短縮保育（慣らし保育）期間は子ども一人ひとりを丁寧に観察し、子どもと向き合い、信頼関係を築くことに重点を置いています。短縮保育は5日間を基本に実施し、継続して保育士担当制で保育に当たっています。担当保育士と子どもが深い愛着関係を築くことで保育目標の、「人と人との信頼」、「優しい気持ちを養い、忍耐力・正義感・自制心をもつ豊かな心」、「命の尊さを知らせ、慈しむ心と感謝の心」等が自然に生まれ、保育理念の「やる気を育て、自分で考えて行動できる子ども」の育成につながっています。

2. 【乳幼児の発達に必要な保育・教育の提供】

●わおわお保育園の保育の特徴に、6つが挙げられます。それは、「知育」、「体育」、「英会話」、「絵画」、「食育」、「リズム遊び」、です。「知育」についてはカウディアの保育理論を展開し、「体育」では体育指導者検定有資格者から指導を受け、「英会話」は外部のネイティブな講師が歌と遊びを通して体を動かしながら英語のリズムや発音を感覚で覚え、話し、英語への興味・関心を育てています。「絵画」については研究発表会を継続して行い、子どもたちが様々な画材や素材に触れることで観察力、創造力、表現力を養っています。園では、大きな壁面に自由に体全体で行うボディペインティングを行い、非日常的な大胆に表現する機会を得る等、子どもたちが伸び伸びと自由に表現できる機会を設け、「食育」活動では野菜等の栽培から調理体験を行い、「食を営む力」の基礎を身につけています。「リズム遊び」は音楽を使って、身体的、感覚的、知的に優れた子どもの育成を目指しています。これら6つの取り組みは、わおわお福祉会系列園全てで展開している特徴的な項目です。

3. 【地域支援機能】

●わおわお保育園は、鶴見区の矢向地区の幹事園として地域の子育て事業を積極的に推進しています。現在、鶴見区の公立保育園は4園、鶴見中央に2園、潮田、馬場に各1園あり、矢向地区に公立園はなく、子育て支援のネットワーク機能が広がりを見せる中で、矢向地区の幹事園として公立園の役割も担いつつ、近隣の保育所と合同で地域イベントの開催や、わおわお保育園の保育士が主体的に講師を務めて子育て講座や交流保育等を企画・運営・推進しています。わおわお保育園独自にも一時保育、交流保育、園庭開放、「プレびよ」でのふれあい遊びを提供し、園行事の運動会、夕涼み会に地域の方々を招く等、保育園と子育て家庭、地域の交流を積極的に推進し、地域の中核として大きな存在となっています。園長は、園関係者の努力の賜物と敬意を表し、保育園を地域の資源として貢献しています。

《さらなる期待がされる点》

1. 【中堅・リーダークラスの保育士の育成について】

●園では、年度ごとの自己研鑽計画を基に、園長と職員の面談を実施して職員の育成に力を注いでいます。チューター制度を導入し、OJTの担当者等を定め、人材育成において仕組化を整備しています。人事考課の基準では、経験・能力・習熟度・役割、期待水準等を自己評価票に明文化し、「見える化」を図り、研修体制も確立しています。また、職員の専門性や職務追行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価する仕組みも備え、評価結果は職員にフィードバックして自己管理目標の取り組みを園長の面談において指導・助言を受け、自己の資質向上に取り組んでいます。わおわお保育園は他系列園に比し、保育士の質も量も揃っています。但し、わおわお保育園の使命は水準以上の保育士を揃えるだけで良しとせず、法人系列園のさらなる増加と保育の質の確保を見据え、管理ができる中堅・リーダークラスの保育士の育成はこの園の最重要課題としいただき、他系列園に中堅・リーダークラスの保育士を送り出しても現状のレベル保持に影響ないよう、さらなる人材の質と量を保障していくことが、わおわお保育園の使命と考えて推進していかれることを期待しています。


横浜市福祉サービス第三者評価結果

第三者評価受審施設 わおわお保育園	
評価年度	平成 30 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

<評価領域>

I	利用者本人（子ども本人）の尊重	II	サービスの実施内容	III	地域支援機能
IV	開かれた運営	V	人材育成・援助技術の向上	VI	経営管理


評価領域 I 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類 1 - 1	保育方針の共通理解と保育計画等の作成
評価	

評価の理由（コメント）

- 社会福祉法人わおわお福祉会の経営理念は、「子どもの笑顔で世界を変える」と謳い、わおわお保育園の基本理念は、「ほめて・みとめて・はげまして」を掲げ、保育の理念、基本方針共に子ども本人を尊重したものになっています。園では、保育の実践を通して子どものやる気を育て、自分で考えて行動できる子どもを育み、自己肯定感の醸成を目指しています。保育目標として、「人と人との信頼」を築き、人間性を育む上での「正しい習慣」を身に付け、体験と経験に裏打ちされた「創造性の芽生えとやる気」を育み、「もじ、かず、ことばへの興味や関心」を導き、「元気で明るく、笑顔で挨拶できる子ども」を育てています。職員に対しては、理念や基本方針を記載した資料を配付し、職場内研修を実施して確認を行い、年度当初の会議で職員一人ひとりが自分の考えを表明し、共通理解を図っています。理念や基本方針は玄関の掲示板にも掲示し、保護者、来園者へ理解を促しています。
- 全体的な計画は、子どもの最善の利益に重点を置き、年齢ごとに発達過程、ねらい（養護・教育）、食育、環境、保育士の配慮の分野ごとに計画を立案し、立地・環境や地域とのかかわり、子どもの様子と取り巻く環境を盛り込み、保育方針や園のビジョンに基づいた全体構成が成されています。年度当初には職員会議で園のビジョンや方針について全職員で話し合い、全体的な計画に組み入れています。保護者に対しては、入園説明会、懇談会等において園長から園の方針、園目標の説明を行い、全体的な計画も配付しています。

●年間指導計画、月間指導計画、週案、日案については、全体的な計画に沿い、子どもの成長・発達を考慮しながら各クラスで話し合って作成しています。職員は、子ども一人ひとりの気持ちや要望を汲み取り、子どもの姿を浮かべながらクラス会議で気づきや保育中に感じたことを話し合い、園長、主任も加わり様々な角度から指導計画に反映させています。また、クラスでは子どもの興味に合わせ、子どもの主体性が発揮できるよう計画は柔軟に変更しています。月間指導計画は、月のねらいと取り組み内容を定め、全職員で策定しています。

評価分類 1 - 2	子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施
評価	

評価の理由（コメント）

●入園前に入園説明会では、子ども同伴での来園をお願いし、保護者に「入園までの生活状況」、「児童原簿」を提出してもらい、提出書類を基に園長、主任、担任予定職員で個別に面談を行っています。家庭での子どもの様子や家庭の状況を把握し、説明会時に子どもが遊んでいる様子の観察を行い、職員間で情報を共有しています。また、重要な事項については全体職員会議で話し合い、情報共有を図りながら保育に生かしています。児童原簿等の記録は事務室で管理し、格納しています。入園後に子どもの発達状況や支援の必要を把握した場合は適宜、区役所の保健センター、関係機関と連携し、助言・助言を受けるようにしています。

●新入園児受け入れに際して短縮保育（慣らし保育）を実施し、期間については5日間を基本とし、保護者の勤労状況、家庭の事情に配慮しながら、子どもが慣れるよう無理なく進めること大切にし、子ども一人ひとりをゆっくり丁寧に観察することを重要視して実施しています。新入園児が安心して過ごせるよう、0歳～2歳児については保育士担当制を採用し、子どもの様子に合わせて個別に対応しています。保護者へは、乳児は連絡ノートで密に連携を図り、子どもの様子を伝え、送迎時にも口頭で伝えています。3歳児以上は必要に応じて連絡ノートを活用し、クラスの活動はホワイトボードで知らせています。在園児への配慮では、なるべく担当の1人は持ち上がりとし、短縮保育期間中は午後からゆっくり過ごせるよう配慮しています。

●個別指導計画については、子どもの発達状況に応じて担任間で相談して作成し、副主任、主任、園長が順に確認をして決定しています。月案等は前月の評価、反省を基に次月の反映にさせて作成しています。評価はクラス会議、カリキュラム会議で実施しています。

●1歳児以上3歳未満児の保育については、自分でしようとする気持ちを大切にし、コーナーを工夫して遊び込めるようにしています。室内だけでなくテラスやホールに巧技台等で段差を作り階段の上り下りをする等、全身を使う活動を取り入れています。また、子ども一人ひとりの体調、機嫌、食欲等の状態を確認し、状況に合わせた対応を心がけ、信頼関係の築きにつなげています。2階のベランダ（2面）ではかくれんぼや鬼ごっこ等ができる環境が整えられ、保育士が仲立ちをし、友だちと一緒に楽しく遊べるよう援助しています。


● 3歳以上の保育では、3歳児は集団の中での安定した遊びを、4歳児では集団の中で自分の力を発揮し、友達と共に楽しめるような遊びや活動を、5歳児では集団の中で個性を発揮し、友達と協力して一つのことをやり遂げるような遊びや活動を支援しています。保育室にコーナーを設定し、子どもの興味・関心のある玩具を用意し、自由に身体を動かして遊び、人工芝を敷設した園庭に段ボール等を置いて友達と協力して遊べるよう工夫しています。園目標での「触れ合いを通じて人と人との信頼」・「子どもの社会性を培い人間性を育む」よう活動通して実践に努めています。

評価分類 1 - 3	快適な施設環境の確保
評価	

評価の理由（コメント）

● 施設環境については、毎日、園内外の清掃を専門のスタッフ及び保育士が清掃チェック表に沿って行い、清潔に保たれています。各保育室は東南、南西に向いており、陽が入り明るく、強制換気装置、冷暖房、床暖房が設備され、快適な環境を整えています。また、室内の温・湿度の目標値を決めて管理を行い、日々通気、換気にも配慮し、子どもが散歩や外遊びに出かけている時間帯や午睡終了時には窓を開けて自然換気を行っています。音量については、保育士や子どもの声が騒音にならないよう心がけ、他クラスの妨げにならないように注意しています。


● 沐浴設備、温水シャワーは、乳児用トイレに沐浴室を設備し、1階・2階の園児用トイレに温水シャワーを設置し、汗・汚れの処理等を行い、体の清潔を保っています。沐浴設備、温水シャワーは使用后、必ず清掃、消毒（次亜塩素酸ナトリウム）を実施しています。足ふきマットも使用しています。

評価分類 1 - 4	一人ひとりの子どもに個別に対応する努力
評価	

評価の理由（コメント）

● 子ども一人ひとりの状況に応じて保育目標を設定し、3歳未満児および3歳児以上の特に配慮が必要な子どもについて個別指導計画を作成し、細やかに情報を共有しています。気になる子どもについては、クラス会議で策定について検討し、毎月のクラス会議で話し合い、見直しを図っています。個別の指導計画（目標・計画）については定期的な見直しと共に子ども一人ひとりの発達状況に合わせて都度柔軟に対応するようにしています。保護者とは日々の保育状況を伝え、連携を図りながら共有し、年2回面談日を設けて意見や要望を聞いています。個別指導計画の見直しにより重要な部分については保護者に説明して同意を得ています。

●統一ある書式で子どもに関する基本的な情報、家庭の個別状況等、重要な申し送り事項を記載した個別ファイルに記録しています。個人ファイルは鍵のかかる書庫に保管し、職員が閲覧することができるようにしています。各クラスで「引き継ぎノート」を設け、保育状況やケガ等を記載し、進級時、交代する保育士に引き継いでいます。

評価分類 1 - 5	保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み
評価	

評価の理由（コメント）

●配慮を要する子どもについては、子どもの様子を見て受け入れを行い、個別指導計画を作成の上、クラス会議・全体会議で記録を基に検討を図り、職員間で共通理解の下、統一した対応ができるようにしています。職員は看護師による内部研修を受け、チューター制度や外部研修で学び、得た最新情報は職員間で共有を図り、保育に生かしています。

●横浜市東部地区療育センターの巡回訪問や医療機関、専門機関と連携し、指導・助言を得られる態勢を整えています。また、横浜市東部地区療育センターの指導、研修報告書は記録に残し、必要時に確認ができるようにしています。障害児保育について全職員で学習し話し合える体制を整え、他児と共に育ち合う統合保育を基調に保育に取り組んでいます。障害児保育のための環境整備では、出入り口のスロープ、吊り下げ式ドア、多目的トイレ、バリアフリー等を整えています。

●虐待については、ガイドラインを備え、早期発見と適切な対応を心がけ、発見時における「なすべき行動と対応法」を学んでいます。虐待の予防や早期発見のために日頃から観察や保育を通して子ども、保護者に対して「アンテナ」を大事にし、変化が見られた場合にはクラスの伝達ノートで情報共有を行い、園長へ報告して指示を仰ぎ、気になる子ども、保護者とコミュニケーションに努め、早期発見に努めています。また、家庭支援が必要な保護者との信頼関係の構築を図り、保護者への援助で虐待予防に努めています。虐待が明確になった場合には、鶴見区役所の保健師、横浜市中心児童相談所等と連携を図り、態勢を整えています。

●食物アレルギー疾患のある子どもの除去食を提供する場合は、「わおわお保育園アレルギー対応マニュアル」に基づき、保護者から生活管理指導票を提出してもらい、食物アレルギー対応表により看護師・調理士が確認し、かかりつけ医の指示を基に保護者と密に連携を図り、情報を共有して除去食を提供しています。毎月、アレルギー児の献立を調理士と看護師で確認し、月末に保護者に配付してチェックしてもらっています。給食では、色違いの専用食器、トレイを用い、食札を活用して個別配膳と厨房、保育士でチェックを行い、誤配膳、誤食がないよう徹底しています。園では、アレルギー児のお代わりをできるよう準備しています。職員は、看護師による食物アレルギーに関する研修を受けて知識を深め、マニュアルを周知して確認しています。

●文化が異なる外国籍や帰国子女の子どもへの対応では、個別指導計画を作成して配慮しています。現在、1歳児に外国籍の子どもが在園し、英語のできる職員が対応しています。外国文化や生活習慣を尊重し、受け入れの際には保護者とコミュニケーションを取りながら相互理解を図り、生活を進める中で様々な違いがあることを伝え、園生活をスムーズに送れるよう援助しています。意思の疎通が難しい保護者の場合は、絵カード、図、写真、通訳ボランティアを活用するなど工夫を行い、保護者への連絡ノートにはルビやローマ字を施す等対応しています。必要に応じ宗教食の対応もしています。

評価分類 1 - 6	苦情解決体制
評価	

評価の理由（コメント）

●保護者からの苦情などに関しては、重要事項説明書に苦情・相談の窓口の受付担当者、解決責任者を明示し、面談、文書等の方法により相談・意見を受け付けていることを知らせています。第三者員の連絡先、氏名も入園のしおりに明記し、入園説明会で苦情解決について説明を行い、玄関に掲示して苦情に対する対応姿勢と手続方法を示しています。要望や意見等を聞く機会としては、送迎時の保護者との会話、連絡ノート、意見箱の設置、クラス懇談会、個人面談、行事後のアンケート等を実施しています。自分で意見の表明が困難な子どもや保護者に対しては、子どもからは表情や仕草によって汲み取り、保護者へは登降園時に要望・苦情等を聴くように努めています。

●苦情解決マニュアルを作成し、苦情受付担当者および苦情解決責任者は園長と定め、重要事項説明書にも記載しています。苦情・要望があった場合は、全体会議に諮り全職員に周知し、解決策を速やかに検討し、提起者にフィードバックするようにしています。受けた意見等は報告書としてファイルし、過去に連絡ノートに記された内容や職員が直接保護者から受けた苦情等と共に保管し、再発防止に生かしています。受けた苦情の解決が、園単独では難しい場合には、法人本部、横浜市、鶴見区や第三者委員等を活用しています。

評価領域Ⅱ 利用者本人（子ども本人）の尊重

評価分類Ⅱ－1

保育内容 [遊び]

評価



評価の理由（コメント）

●子どもたちが自発的に活動できるよう、玩具は子どもが自由に取り出して遊べる手の届く高さに収納棚を設置し、発達に相応しい玩具の取り揃えと、興味や季節に合わせた玩具の入れ替え、配置換えを行っています。保育室にカラーボックスや衝立でコーナーを設け、子どもが寛いで落ち着いて遊びに集中できる環境作りを行い、個々に好きなことをして遊ぶ自由遊びの時間と、設定保育の時間等、メリハリをつけた保育を行っています。外遊びでは、園庭設置の玩具箱からスコップ、バケツ、ポールや砂遊び用具等、子どもの自由な発想で遊び込める時間を十分に設けています。


●遊びが一齐活動に偏らないよう心がけ、子どもの興味に合わせた環境設定を行い、遊びを展開できるよう支援しています。子どもの自由な発想を生かせるようコーナーを設定し、主体性を大切にして伸び伸びと過ごせるよう工夫しています。一齐活動ではルールを守りみんなで一緒に活動・遊ぶことを目標として取り組み、ルールのある集団遊びを取り入れ、年齢に応じて友達とのかかわりや約束を守る等、社会性を身につけられるよう工夫しています。異年齢保育では、各年齢の発達を踏まえた遊びを工夫しながら異年齢の触れ合いを大切に、朝夕は異年齢で遊び、お昼はランチルームで食事を異年齢で取り、お散歩や図書コーナーで一緒に遊び、進級式では上の年齢になった自覚を持つ等、成長が見られています。

●動物の飼育や栽培・園外活動では自然に触れたり、地域や社会に関わる体験を取り入れています。動物の飼育では、ザリガニやカブト虫の飼育を行い、栽培については園の駐車場横に畑を設け、地域のシルバ－さんに手伝いをいただきながら野菜の苗を植えや、ハーブ、夏野菜等を栽培し、水やり等をしながら成長を観察し、収穫体験を行い、多く収穫できた時には保護者にも分けて持ち帰ってもらっています。収穫物は調理をしてもらい、みんなで食事を取り、苦手な野菜も食べられるようになるなど成果となっています。公園へ散歩に行く時には手作りの「お散歩バック」を持って出かけ、公園で見つけた自然物を持ち帰り、素材に触る遊びや製作時に活用する等、身近な自然から興味を広げています。散歩時には行き交う地域の方に挨拶をして交流しています。

●毎月、歌やリズム遊びを通して、子どもたちはのびのびと表現を楽しんでいます。表現活動での英語については、専門講師による教室での学び、保育を通して英語あそびを生かすよう年間レベルで進めています。知育では「ガウディア」を推進しており、ペーパーワークの他に検討および方向性を考えています。体育は、専門講師、体育を教示できる保育士が7～8名在籍し、体力、運動能力の増進を図っています。日常的に廃材を用意し、子どもたちが自由に製作活動に取り組める環境を整え、自由に描ける紙（フリーペーパー）を設けていつでも絵や文字等、様々に自由に表現ができる機会を提供しています。

●子ども同士のケンカについては、危険のないよう見守り、自分たちで解決できるよう援助を行い、発達に応じて声をかけるタイミングを見極めて仲立ちもしています。異年齢保育では、異年齢のクラス同士でお散歩に行ったり、午睡では年上の子どもが、年下の子どもを起こすお世話をする等、交流の機会を多く取り入れています。朝夕の合同保育の時間には、遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう努めています。

●健康増進の工夫では、園の園庭も広いですが、すぐ近くに大きな公園（矢向1丁目公園）があり、第2園庭のように活用する等、子どもたちは元気に走り回り、年齢や目的に応じて戸外活動、散歩の行き先を選択して出かけ、体力作りを行っています。室内では、クライミングコーナーや技巧台、マット等で運動機能を高める遊びを積極的に取り組んでいます。また、園庭では人工芝が一面に張られており、子どもたちが駆けっこや縄跳び、ボール蹴り、固定遊具のジャングルジムや鉄棒等で、のびのびと体を動かして遊ぶ環境が整備されています。戸外遊びでは日除け帽子を被り、園庭の砂場には蔓性植物が日除けとなり、2階のテラスにも日除けを設置して紫外線対策を行っています。アレルギー児の対応では保護者と医師の指示に基づき、帽子着用や長袖着用等で対応をしています。


評価分類Ⅱ－1	保育内容 [生活]
評価	

評価の理由（コメント）

●食事を豊かに楽しむ工夫として、幼児クラスでは給食をバイキング方式で取り入れ、盛り付けのサンプルを見て子どもの自己申告にて食事を保育士に伝え、汁物、ご飯、おかずを自分でテーブルに運びます。給食は異年齢（3歳～5歳児）でテーブルを囲み、各テーブルで「いただきます」を唱和して食事を始め、異年齢でお話しながら楽しく食事が行われています。保育士は、子どものペースを認めながらも食事に集中するよう、目標時間内に食べられるよう気を配っています。偏食対応については、無理強いをせず、友だちと一緒に食事することで苦手な食材も自然に食べられるよう支援し、また、食べる意欲を引き出せるよう一人ひとりに合った声かけを行っています。0歳、1歳児は1グループで食事を取り、子どものペースを尊重し、楽しい雰囲気です授乳・離乳食を進めるよう援助しています。2歳児は保育室で落ち着いて食事を取っています。


●食育では、食育計画に添い、季節ごとに園庭の畑で野菜を栽培して収穫し、食材に触れ、ごぼうの皮むきや米とぎ等、年齢に応じて調理体験を行い、畑で育てられた野菜の収穫、切る、煮る、焼く等の食育活動を行っています。食器については、メラニン製食器を採用し、発達に応じて食具を数種揃え、箸は各自で持参しています。乳児は天気の良い日にはベランダに出て食事をする機会を設け、特別な時には食卓にランチョンマットを用意して特別感を演出し、クリスマス会やお別れ会等の行事の時には特別メニューを提供する等、楽しく食事ができる雰囲気作りをしています。

- 栄養士は毎日、食事の様子を見廻り、毎月の給食会議で、把握した子どもの喫食状況（残食量）を参考にして献立の検討、量や切り方等の工夫に生かしています。また、子どもの好まない食材は食感の良いものと組み合わせる等、食材の組み合わせを工夫しています。
- 献立表は、保護者へ事前に配付し、園玄関ロビーにレシピと共に実物を展示し、郷土食のレシピは掲示して家庭に情報を提供しています。また、毎月、給食便りを発行し、レシピや食の知識を掲載し、保護者からの質問には栄養士が対応しています。誕生会や茶話会時には保護者に試食の機会を提供し、ご夫婦で来園される方もいる等、給食への理解、関心が持てるようにしています。
- 午睡については、安心して心地良く午睡ができるようカーテン等で調整し、室温、湿度に配慮しながら午睡中の環境作りをしています。眠れない子ども、眠くない子どもには、休息できるようホールやテラス、室内等で静かに過ごすよう促し、午睡・休息は発達や子どもの状況に応じて対応しています。SIDSの予防では、0歳児は5分間隔、1歳児は10分おきにブレスチェックを行い、チェック表に記録し、うつ伏せ寝の防止に注意しています。5歳児は就学を見据え、午睡は取らないようにして外遊びや製作、ガウディア等で過ごしています。
- トイレトレーニングでは、個人差を尊重し、保護者と密に連携をとりながら、一人ひとりの排泄のリズムを把握し、その子に合わせたタイミングで排泄を促しています。排泄のトレーニングでは、子どもの気持ちに寄り添い、排泄の間隔を把握し、強制や無理強いをしないよう優しく声をかけながらトイレ誘導を行っています。排泄に失敗した際は、子どもの羞恥心に配慮するよう心がけ、シャワーを活用する等、気持ち良く過ごせるよう対応しています。
- 延長保育、短時間、標準時間での子どもの状態は、伝達ノートにより遅番の保育士と共有し、子どもが安心して過ごせるようにしています。長時間保育では日中の活動や子どもの体調面に応じて過ごし方に配慮し、普段とは違う玩具を用意してゆったりと遊べるよう工夫しています。延長保育内での出来事はクラスノートに記録し、翌朝に伝え、職員間で共有しています。保護者に対しては、連絡事項に関して伝達漏れのないよう十分確認して伝えています。

評価分類Ⅱ－２	安全管理 [健康管理]
評価	

評価の理由（コメント）

- 健康管理は、看護師の管理の下、職員に周知しています。健康台帳、身体測定結果、健康診断・歯科健診結果、予防接種の接種状況や既往症歴等の保護者記入の健康台帳で子ども一人ひとりの健康状態を把握しています。健康台帳は、年度末には台帳を保護者へ返却し、更新しています。既往症に関しても健康台帳を基に継続的に管理し、変化が見られた際はミーティングや引継ぎノートで情報の共有を図り、主任、園長に報告しています。歯磨き指導については、1歳児から各自の歯ブラシで食後に保育士が指導を行い、口腔状態も確認しています。年2階、健康診断、歯科健診を実施し、毎月、身体測定を行っています。健康診断結果はその日の内に保護者にお知らせすると共に健康台帳、身長・体重シール帳、健康曲線に記入しています。歯科健診の結果は歯科健診票に記載して保護者に知らせています。手洗い・うがいについては、洗面所に「手洗いの手順」を示し、絵本や紙芝居でも大切さを伝えています。
- 感染症等について、感染症対応マニュアルを備え、「保育における感染症対策ガイドライン」および「横浜市園医の手引」に沿って管理と実施を適切に行っています。保護者へは入園案内の12「健康診断・健康管理について」、13「感染症対策について」の項で説明しています。感染症が発生した場合は、マニュアルに沿い、園内での感染症蔓延に注意し、ボードに注意喚起の掲示を行い、職員に対して必要な情報をミーティング等で周知しています。保育中に発症した場合には、園長の指示の下、速やかに保護者に連絡を行い、迎え到着まで事務室で隔離し、事務室に「入室禁止」の札を下げて他児への感染予防に注意しています。感染症に関する連絡・情報は、職員に周知徹底しています。

評価分類Ⅱ－２	健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]
評価	

評価の理由（コメント）

- 衛生管理マニュアルを整備し、ノロウイルスに関する対応マニュアル等も備えています。毎年、職員間で確認・見直しを実施し、最新の内容で運用しています。ノロウイルス対策では嘔吐処理セットを保育室に備え、職員は研修にて使い方を習得しています。トイレや沐浴室の清掃はマニュアルに沿って清掃を実施し、実施後のチェック表により衛生管理を行っています。マニュアルは全職員で共通認識を図っています。

評価分類Ⅱ－2

健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]

評価



評価の理由（コメント）

●安全に関するマニュアルを備え、事故や災害に備えた安全対策を実施しています。特に、睡眠中、プール活動、水遊び、食事中等の場面で事故・災害が発生しやすいことを理解し、プール活動での監視方法等は園内研修で職員に周知して体制を整備しています。津波、高潮の際には隣の介護老人保健施設に協力を求められるよう連携を図っています。保育室の棚、備品に関して滑り止めを固定し、備品等の落下、家具転倒防止を講じています。緊急時に備え、園内の避難経路図や緊急時の職員体制を整え、事故や災害時に的確に対応できるようにしています。また、BCP（事業継続計画）では災害を想定し、避難および保育の継続の体制を考えた訓練を年2回実施し、全職員に周知しています。職員は看護師による心肺蘇生研修や、救命救急法研修を受講し、緊急時に備えています。

●事故やケガにおける対応について、職員体制、保護者や救急機関、地域への連絡体制を整備し、緊急時に対応できるようにしています。園内で事故やケガが発生した場合は、報告書を作成し、会議を行い、対応策を検討して共有を図り、原因の究明と再発防止に努めています。通院が必要なケガや事故については「事故報告書」に記録し、医師の指示情報の漏れや誤伝達が起こらないように徹底し、速やかに対応しています。子どもの事故やケガについては、ケガの部位、軽重にかかわらず看護師が「保健日誌」に記録し、保護者に連絡および説明を行い、対応に努めています。

●外部からの侵入に対して、園の入り口他、計4か所に防犯カメラを設置し、門扉は電子錠とし、事務室から見通しも良く、来園者が認識できるようになっています。保護者や職員のみICカードを保有して開錠するシステムとし、事前を送迎者の顔写真を登録してもらい、未登録者には子どもの引き渡しはしないよう管理しています。設備は警備会社が運営するシステムで管理しています。また、散歩時は必ず保育士と連絡が取れるようにしています。不審者情報は、鶴見区役所からFAXや保護者、法人系列園から情報入手しています。



評価の理由（コメント）

- 子どもの人権については「わおわお職員マニュアル」に明記し、保育者としての心構え、子どもとの接し方、言葉遣いについて記載されています。また、保育基準の徹底を図り、保育士倫理綱領を全職員が保有し、全体的な計画や研究発表において、「自尊心について」職員間で話し合う機会を設け、研鑽を図っています。さらに、人権について園内研修で共通理解を図り、保育場所として穏やかな雰囲気作りを心がけています。職員は、叱り方・呼び方等に威圧的な言葉遣いや、強制等を行わないよう心がけ、子どもの気持ちに寄り添い、穏やかに話すように努めています。園では、保育理念に沿い、子どものやる気を育て、自分で考えて行動するよう子どもの成長への育みに力を入れています
- 保育室に子どもが落ち着いて遊べるコーナーを設け、集中して遊べるよう配慮しています。また、他児の視線を意識せずに過ごせる場所として、階段下の絵本コーナー、テント、棚の下、ラッテス等を活用し、1対1で話し合う必要が生じた場合は、集団から離れた所でゆっくりと話し合えるよう配慮しています。保護者との面談等では、談話室を活用し、プライバシーを確保しています。
- 個人情報の取り扱いや守秘義務については、入職時に「秘密保持に関する誓約書」を提出し、秘密保持を徹底しています。ボランティアや実習生には、事前にオリエンテーションで個人情報の守秘義務について話し、誓約書を交わしています。保護者には、入園案内に個人情報取り扱いについて記載し、入園時に個人情報の守秘義務について説明を行い、「緊急連絡網の作成並びに配付に関してのお願い」、「園児の写真・映像等の承諾のお願い」を配付し、了承の押印を得ています。子どもについては、個人が特定されないように名前はひらがなで記し、誕生日も掲示しないよう保護者の同意を得ています。また、個人情報の入った書類等は所定の場所に保管し、閲覧場所を定めて管理しています。
- 性差に関する配慮では、遊びや行事の役割、持ち物の区別、順番、グループ分けや整列も性別で区別することはせず、子どもの好きな色、好み、望むものを尊重しています。子どもや保護者に対して、固定的に捉えた話し方や表現をしないように心得、子どもへの無意識な言葉かけについて振り返り、共通認識を図る体制を整えています。給食時や食育時の着ける割烹着は男子職員も女子職員も同色（緑色）を着用しています。



評価の理由（コメント）

- 保護者に対し、基本理念と保育目標は、入園説明会時に「入園案内」（重要事項説明書）に基づいて説明を行い、玄関ホールに額に入れて掲示しています。理念・目標に沿って策定された全体的な計画は保護者に配付しています。年度末の懇談会では、1年の振り返りを保護者に伝え、保護者の意見を聞く時間を設けています。毎月発行の園だよりには年間指導計画に沿って策定された「今月の目標」を掲載し、各クラスの子どもの成長と共に、今後の取り組みを記載し、子どもの成長に「保護者がどのようにかかわって行くか」について理解を促しています。
- 保護者との日常的な情報交換は送迎時、連絡帳、個別面談、クラス懇談会（年2回）等で行い、園生活での様子や活動内容は、引き継ぎノートを活用して子ども一人ひとりの様子を伝えています。連絡帳では保護者と子どもの成長を共有しています。保護者との連絡、伝達事項は、職員間で情報を共有し、漏れない引き継ぎノートにより、送迎時に正確に伝える等、丁寧な対応に努めています。保護者との連絡・伝達事項は職員間の引継ぎノーターに記して共有を図っています。
- 個別相談・面談については、面談週間を定め、保護者の都合に配慮して日時を決めています。相談、面談は、相談室を活用し、面談時には複数の職員で対応し、相談内容は園長や主任に報告および助言を得、相談内容を記録し、必要に応じて園長や主任保育士が同席して対応しています。
- 園生活に関する情報は、園全体の情報、各クラスの活動（室内活動・園外活動）等はホワイトボードに記載してお知らせし、ドキュメンテーションにコメントを添えて視覚的に伝えています。わおわお保育園では、毎月、園だより、クラスだよりを発行し、クラスごとに園、クラスから保護者への一言、年間取り組み目標、月別の子ども一人ひとりの取り組み目標、1日の保育の流れ等を記載し、保護者に情報を提供しています。
- 保護者の保育参加・参観については、年度初めに年間行事予定表を配付し、保護者が事前に保育参観、保育参加の予定を立てやすいよう、参加率のアップを図り、積極的に受け入れています。基本的には保育参観を実施し、毎月のお誕生日会時に保育参加を行う機会が多い状況です。保育参観・懇談会等に参加できなかった保護者については、希望する別日を案内し、随時実施するようにしています。また、保育参観、保育参加時に議事録を渡し、情報の提供をしています。
- 園では保護者会があり、各クラス役員を3名選出してもらい、2～3か月に1回役員会を開催し、2月の最終土曜日に役員の変更を行って次年度への協力を仰いでいます。場所提供の他、相談や要請があった場合は可能な限り受け、保護者会主催のイベントには園長や主任が参加し、保護者とコミュニケーションを良好に図り、園の円滑な運営につなげています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供

評価



評価の理由（コメント）

● 地域の子育て支援では、園ビジョンの「子どもたちの幸せのため、保護者の幸せのため、地域全体の幸せのために」を背景に、地域の子育て支援のニーズを把握し、支援しています。わおわお保育園は矢向地区の保育園の幹事園であり、園が中心となって地域のイベントの企画、実施し、地域に貢献しています。園独自では、一時保育（毎月）、園庭開放（月２回）、イベント、育児相談等を実施しています。また、公園に出られない家庭の親子の意見等も聞き子育て支援に尽力しています。「プレびよ」ではふれあい遊びや交流保育、育児講座等を企画・立案し、提供しています。地域の子育て支援ニーズについては、各種活動について担当を決め、職員会議で企画の検討を行っています。

評価分類Ⅲ－２ 保育園の専門性を生かした相談機能

評価



評価の理由（コメント）

● 鶴見区の子育て情報サイト、広報よこはま鶴見区版等に掲載して情報提供しています。相談事業については鶴見区の広報誌や、鶴見区のホームページに子育て相談の案内、交流保育の受け入れ、園の紹介を掲載し、育児相談に応じる旨を発信しています。また、子育て支援事業の利用者や園見学者にも園の情報を提供し、保健便り、地域の情報（地区センターの催事など）を担当職員が対応して園外にある掲示板に情報を提供しています。子育て支援事業は、週２回（第２・４火曜日）の園庭開放、育児相談、ふれあい遊び、交流保育、育児講座、年３回開催される「プレびよルーム」など積極的に実施しています。

● 園長は、各種連絡会に参加し、入手した情報は職員に周知しています。関係機関との連携マニュアルを備え、関係機関・団体等の連絡先リストを作成して事務室にファイルし、職員で共有しています。関係機関（鶴見区子ども家庭支援課・鶴見区役所保健センターの保健師・民生委員・近隣小学校・地区センター・東部療育センター・児童相談所・警察・消防署等）との担当は園長・主任とし、連携を図っています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類Ⅳ－１ 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ

評価



評価の理由（コメント）

- 地域への園の理解促進のための取り組みとして、矢向1丁目公園を借りて運動会を行い、卒園児や保護者・地域の多くの方を招待しています。夏の夕涼み会では盆踊り、屋台を出し、チケットを発行して近隣の方や未就園児も参加して交流をしています。日々の散歩時には行き交う地域のお年寄りや商店と元気良く挨拶を交わし、わおわお保育園を知ってもらうよう交流を行っています。また、地域の7か所の保育所と共同で子育ての地域イベントを開催し、わおわお保育園から玩具等の貸し出しを行い、協力体制を持っています。地域のシルバーさんにはボランティアとして園の畑での野菜栽培の協力をお願いしています。幼保小連携の意見交換会に参加し、年長児の就学を見据えた有効的な交流を図っています。
- 地域の文化・レクリエーション施設等の利用では、散歩時に利用する鶴見区立の公園、鶴見の地域子育て拠点等を利用しています。また、中学校と連携を積極的に図り、中学生の体験学習を受け入れて地域交流を行っています。また、地域の商店街へは栽培活動での野菜の苗を購入し、お店の方と交流をしています。域内小学校の運動会には新入予定者用としてのプログラムがあり、5歳児が参加しています。園の隣の老人保健施設とは親しく交流が行われています。

評価分類Ⅳ－２ サービス内容等に関する情報提供

評価



評価の理由（コメント）

- 園の保育内容・保育方針等の情報提供は、鶴見区のホームページ、鶴見区の子育て支援情報サービスのホームページやパンフレット、横浜市の「ヨコハマはびねすぽっと」に情報を掲載しています。園のパンフレットの提供、子育てイベントの開催情報等は鶴見区の子育て拠点等に提供しています。福祉法人わおわお福祉会のホームページでは、所属保育園7園が紹介され、各園で取り組まれている保育の内容として「知育・英会話・体育・食育」等をカリキュラムとして組んで、「子どもの可能性を育てる」ことを紹介し、情報提供しています。
- 利用希望者からの電話問い合わせ等については、主任もしくは園長が対応し、保護者の希望に合わせて随時、受入れを実施しています。園見学は、園活動に支障がない限り曜日・時間も希望者の都合に合わせてよう柔軟に対応しています。園のパンフレットにも園見学の受け入れ等を案内しています。

評価分類Ⅳ－3

ボランティア・実習の受け入れ

評価



評価の理由（コメント）

●マニュアルに沿って事前にオリエンテーションを行い、受け入れの担当は主任とし、基本的な考え方や園の方針の説明を行い、理解を促しています。近隣の中学生の職業体験の受け入れ、体験後、子どもと遊んだ喜びの感想を含めたお礼の手紙が届けられています。感想や意見は会議で報告し、掲示して職員間で共有しています。

職員や保護者にはボランティア受け入れの基本的な考え方・方針を説明し、理解されるよう周知しています。

●実習生の受け入れ担当は主任が行い、実習生受け入れのマニュアルに沿って事前にオリエンテーションを行っています。園の保育方針、保育内容、心構え、子どもへの接し方、保護者の対応と守秘義務、留意事項を説明し、守秘義務に関して誓約書を交わしています。保護者に対しては掲示にて周知して理解を促しています。保育士希望者、看護師養成校の実習を受け入れ、実習では、実習生の計画、課題に応じて適切な実習プログラムを作成し、効果的な実習に努め、実習終了日には実習に関わった職員と園長、主任を交えて懇談会を行い、課題・意見を聞き、次回に生かしています。

評価領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上

評価分類Ⅴ－1

職員の人材育成

評価



評価の理由（コメント）

●保育所の理念や方針に適合した人材を育成する為の取り組みとして、人材の補充について職員と話し合い、必要な人材配置を検討し、法人本部に人材確保を依頼し、適宜補充しています。年度初めに自己研鑽計画表を作成し、園長との面談を実施しながら各自の目標が達成できるよう努めています。保育理念・方針を踏まえた保育を実施するために必要な人材育成の取り組みとして、昇格・昇給に連動したキャリアパスを見据えた体系的な研修計画や、OJT・SDS（自己啓発システム）により啓発を行っています。これらに沿って個人資質向上に向けて年度初めに目標を定め、園長との面談で共有を図り、目標への研鑽に取り組み、達成度管理により職員個々のスキルアップを図るよう取り組んでいます。

●正規職員、非常勤職員の研修体制については、法人本部で研修計画を策定し、非常勤職員も正規職員と同様に資質向上への取り組みとして各自の目標達成に必要な研修に参加しています。人材育成での職員、非常勤職員の研修として、新人導入研修ではマニュアルに沿って法人の理念・方針・倫理等について理解を深め、園独自で人材育成計画に沿った研修計画を作成し、主任、園長が研修を行い、研修成果を保育につなげています。

●非常勤職員も会議、園内研修に参加し、保育の質の向上意識を持って取り組んでいます。研修についても職員同様に参加の機会を設け、保育技術や倫理等の習得の研鑽を図っています。資格取得を支援する制度もあり、活用を奨励しています。業務に当たっては、実務年数等を考慮して正規職員との組み合わせを考慮し、業務マニュアルや必要ファイルの閲覧をできるようにし、全職員間のコミュニケーションを大切に、円滑な業務につなげています。

評価分類V-2	職員の技術の向上
評価	

評価の理由（コメント）

●計画的に職員個々のスキルの段階に応じた技術向上に取り組み、自己研鑽計画表を基に、園内外研修に参加し、スキルアップができるよう仕組みを整えています。自己評価を実施し、年度のゴールイメージを定め、個人、全体で目標を共有し、取り組んでいます。職員は自己研鑽計画表の振り返りを行い、年間指導計画に沿った日誌・週案・月案・年間個別指導計画の振り返りも実施しています。また、保育者支援研修、保育者ケアのフォーマットに沿ってスキルアップを図り、園の保育技術の評価を法人本部で評価を受けています。

●園では、保育士一人ひとりが自己の実践を振り返り記録ができるように書式（保育士一人ひとりの目標、事故研鑽計画表、年間指導計画、日誌等）が定型化されています。振り返りは全体計画で示した園ビジョンを基に、職員個々に意図した狙いと照らし合わせて実施し、子どもの活動や、子どもの育ちや意欲、取り組む過程なども重視して行っています。保育士は自らの振り返りを通して、自己の実践を評価し、改善やその後の計画作成に生かしています。

●保育士の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を実施し、評価結果から保育所としての課題を明らかにし、保育所の理念・方針・全体計画に沿った改善の取り組みを行っています。園の課題については法人の研究発表会のテーマとして課題化し、職員全員で取り組んでいます。保育所の自己評価は公表しています。

評価分類V-3**職員のモチベーションの維持**

評価

**評価の理由（コメント）**

●総合的な人事管理として、育成が仕組化されており、その手順に従い取り組んでいます。昇進・昇給に関しては、年齢、資格他の項目が就業規則の中に組み込まれており、園長は、職員との面談・フィードバックを実施して評価を行っています。フィードバックは本人に事前に知らせ、ネガティブイメージではなく前向きに受け止めてもらえるよう工夫をしています。

●就業規則の昇給の仕組みの中に経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明文化され、法人で外部の「キッズリー保育者ケア」（今年初めて取り入れた手法：設問に答えたものをデータ化する方式）を採用し、管理を行っています。園長は、子どもや保護者の状況に応じて職員が自主的に判断できるように、現場の職員に可能な限り権限の委譲に努め、責任は園長にある旨を全職員に明言し、会議を通じて話し合い、職員一人ひとりの考えに耳を傾け、承認して任せるようにしています。職員から業務改善の提案を募り、職員のアンケートも実施して意見・要望を把握し、業務の改善点については、意見を出し合い、職員全員で考えて進めるようにしています。園長は、個別面談で職員の満足度・要望等を把握し、職員自らの責任を自覚して自主的に判断して行動できるよう、指導力を発揮しています。

評価領域VI 経営管理**評価分類VI-1****経営における社会的責任**

評価

**評価の理由（コメント）**

●保育所、職員として守るべき法、規範、倫理は周知し、明文化された文書を配付しています。職員の守るべき「法・規範・倫理」は就業規則・サービス規定に記載され、職員は遵守しています。保育士の倫理講習・研修には必ず参加するよう促し、倫理綱領の穴埋めテストも園内で実施しています。コンプライアンスの規則、規定・要領を備え、園長は他施設の事故・不祥事等の事例について、職員にミーティングや会議で周知し、事例を通して啓発を行っています。また、事案の発生理由等を全職員で考える機会を設け、不適切な対応がないよう喚起しています。決算報告書は社会福祉法人であり、福祉法人医療機構のホームページで公開しています。

●ゴミ減量化、リサイクル・省エネ促進と緑化推進では、環境配慮の考え方、取り組みを明文化し、園の運営に生かしています。環境整備では、横浜市の条例に基づくゴミ減量化やリサイクル、省エネのための取り組みを実施し、ゴミは分別収集管理を行い、省エネルギーの促進ではオール電化として、エコ循環の施設となっています。園内の照明はLEDにし、水道蛇口は使い終わったらキッチリ閉めることを子どもに分かるように説明して励行しています。園庭で野菜の栽培を行い、子どもの日々の水やりで緑化を図り、推進しています。

評価分類VI-2

施設長のリーダーシップ・主任の役割等

評価



評価の理由（コメント）

●園の理念・基本方針は明文化し、園玄関に掲示しています。職員には新人導入教育時、朝礼、会議等で周知しています。年度初めには全体的な計画についての研修を行い、理解を深めるようにしています。クラス会議、全体会議、行事会議では適宜、園ビジョンを話し合うようにし、職員が運営に主体的にかかわれるよう、心構えを積極的に伝え、保育に反映されるよう指導力を発揮しています。園長は、理念や基本方針が保育に反映されているか日々の保育指導で確認し、職員面談時等で定期的に理念や方針・目標の理解度を確認しています。

●重要な意思決定にあたり、園長は、クラス懇談会等を通じて保護者の意見を聞き、継続した検討を行っています。重要な意思決定や変更については、職員および保護者へ、その「目的・決定・変更理由・経過」等を十分理解ができるように説明を行い、保護者会でも意見を聞いています。また、異なる部門の職員による「検討チーム」等、安全・食育・献立・マニュアルの委員会を各園、法人本部の人員で編成し、組織を上げて取り組む体制を構築し、年間を通して保育課題の解決に尽力しています。

●主任クラスは、職務基準、自己評価票（個人目標の自己研鑽計画）、自己評価チェック表（経験年齢別の職員のあるべき姿）等を基に職員一人ひとりの勤務状況を確認しています。主任クラスは、職員の業務状況を把握し、職員個々の精神面、体調等に配慮し、円滑なチームワークの運営に努めています。毎月、法人系列園と合同で主任会や副主任・リーダー会を実施し、研修や情報交換を共有し、責任者としての育成を図っています。振り返りや話し合い、専門研修（相談援助、家族支援等）、地域の行事等に積極的に参加し、知識、指導力を備える経験を重ね、技量を高めています。

●園のスーパーバイザー育成責任者として主任を位置付け、計画的に育成プログラムと育成ビジョンに沿って法人の主任研修に参加し、外部研修にも参加して候補者の支援を行っています。また、主任は園における個々の職員の業務状況の掌握を行い、職員の能力・経験を勘案した支援に当たり、フリー職員の活用も行う等状況に応じた手当を行っています。また、職員のシフト組み合わせ等を含め、職員が精神的、肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるよう OJT 担当者と話し合い、職員一人ひとりの能力や経験に応じて助言や指導を行う等、園長の補佐としてまとめ役およびパイプ役となり、円滑な園運営に努めています。

評価分類VI-3

効率的な運営

評価



評価の理由（コメント）

●外部環境の変化などに対応し、理念や基本方針を実現する為の取り組みとして、園長は、横浜市や鶴見区の区役所を通じて保育所運営に影響ある業界情報や保育施設情報を収集し、法人の定例会議で社会背景、社会情勢、子育て支援の観点から話し合っています。園長会、主任会、副主任会等で得た問題点を課題として設定し、運用面での重要な改善課題は、職員にも周知し、保育所全体の取り組みとしています。その他、全保協・市社協・市立園長会からも情報の収集にあたり、収集した情報は園長・主任で検討の上、全員に周知すべき内容と判断した内容については園の課題として取り上げ、職員間で話し合い、園全体で取り組んでいます。特に事故などの情報については職員会議で全職員に周知を図り、園の現状を見直して改善点の有無の見極めを行っています。

●法人本部では、「子育て支援・地域支援の向上により選ばれる保育園になる」という中長期的課題を掲げ、課題に向けて単年度ごとに細分化された目標を達成するよう取り組んでいます。次代の施設運営に備え、幹部職員は計画的に後継者を育成しています。次代の保育所運営に備えて法人では主任研修としては計画的に（園長）後継者の育成を仕組化して取り組んでいます。横浜市の事業者説明会には園長が出席し、運営に関する必要情報を職員にも伝え、園長との共通認識を図り、より良い園作りに尽力しています。

平成 30 年度 福祉サービス第三者評価 本人（園児） 調査結果報告書

わおわお保育園

調査日程	平成 31 年 2 月 19 日・20 日
保育観察	保育園を調査者 2 名で訪問し、全クラスの視察、生活環境の保育観察を行いました。生活の保育観察を行い、午睡の様子と保育観察を継続する中、園外活動での散歩に同行し、遊び・体操の観察をし、保育士のかかわり方、園児の様子の観察を行いました。各年齢の子どもの 1 日の保育の観察を通してそれぞれの特徴を捉えて記しています。

■0 歳～5 歳の子どもの様子

<室内遊び>

【0 歳～2 歳児】

乳児（0 歳児～2 歳児）の保育は園の 2 階部分を広く活用し、寝食の場所を区別して活動を行っています。1 歳児の保育室はベランダであったスペースを増築してガラス張りの独立した保育室を保有し、有効活用されています。乳児保育室は 0 歳児室と 1 歳児・2 歳児室には玩具が入れられた低いカウンター（カラーボックス）で仕切られていますが、遊びの時は 1 歳児の保育室と同室にして広いスペースで一緒に遊んでいます。0 歳～2 歳児が仲良く遊んでいます。保育室内では、保育士に抱っこされながら何かを指をさして「あっ」や「おっお」とお話をし始めた子どもや、お友だちと一緒に保育室の中を行ったり来たり自由に歩き回っている子どもたち等、玩具で遊ぶことより歩くことの楽しさ、体を動かすことが面白いようです。調査者が階段を上り覗いているのを子どもがを見つけ、笑顔で何か言いながら指を差しています。目が合うと保育士の背中に隠れる子どももいます。保育士が保育室内に入るよう勧めて下さり、スリッパを脱いで中に入ると、子どもたちは様子を伺いながらも興味を示して声を上げて駆け寄ってくる 1 歳児の子どもがいました。とても人懐っこく、手をつないでくれます。思わず笑みがこぼれます。調査者の名札に付いている小さなミッキーマウスを見つけて指でさして、何かお話をしてくれながら興味を示し、ミッキーのシールを摘まんでいます。きっと、「ミッキー知ってる！」とお話してくれていたのでしょう。おぼつかない足取りで 0 歳児の子どもも側に来て 1 歳児がすることを見て同じように「あ～」と言って小さな指をさします。「ミッキーさんだよ」と言うと、目を見て聞き入ります。子どもたちは指さし行動で、物を認識して人に伝えるコミュニケーションが発達し、感性豊かに育っています。保育室は人工芝が敷き詰められたベランダにつながっており、天気の良い日には外遊びをして外気に触れ、気分を変えて食事も行っています。

<朝の会>

【3歳～5歳児】

わおわお保育園の園児は、2歳～5歳児を併せると108名になり、一堂に会しての「朝の会」は難しいのでクラスごとで行っています。午前中は、散歩に同行するのを踏まえ、5歳児を中心に見学し、時間の限り他のクラスも少し見学を行いました。3歳児は保育室で全員が一つに集まり、保育士から絵本の読み聞かせが行われており、子どもたちは熱心に話に耳を傾け、めくられていく絵本に聴き入っています。知っているシーンが出てくると指をさして友だちに話をしたりして楽しんでいました。4歳児の保育室は、まだ準備中だったようで、保育士が楽譜の用意を行い、もう1人の保育士は健康手帳をチェックしているところで、子どもたちは部屋の真ん中に置かれている麦茶で水分補給をして始まりを待っています。隣の5歳児の保育室では、朝の会が始まり、見学を行いました。始めに保育士がジャンケンをすることを提案し、電子ピアノで「メリーさんの羊」のイントロを弾き、みんなでジャンケンが始まります。ジャンケン・ポン！「先生に勝った人は～！？」と言うと、子どもたちが「ハイ！」と手を挙げて応え、第2回戦は「今度はジャンケン・ポン・ポン」で始まることを説明して保育士とジャンケンをしていきます。場は和み、子どもたちは楽しく盛り上がります。次いで、「鬼のパンツ」、「おひなさま」の季節の歌をみんなで歌い、最後に朝の歌を「先生おはよう、皆さんおはよう～」と大きな声で元気良く歌いました。歌の後は、今日の確認を保育士が行い、「今日は2月20日（はつか）水曜日です」、「お天気は？」と聞くと、子どもたちは「晴れ！」と答えます。「今日は1人欠席、全員で25名です」と子どもたちと確認を行い、予定として「散歩から帰って来たら「ガウディア」をやります」と伝え、さあ、お散歩に出かけます！

<お散歩>

【3歳児・5歳児】

朝の会が終わると、5歳児と3歳児と一緒に散歩にでかけました。広い玄関に5歳児が赤い帽子をかぶり集まっています。そこに調査者2名が合流すると、たちまち「おじいちゃんも一緒に行くの?!」と、興味津々に話しかけてきて保育士の話に耳を傾けようとしないので、引率の1名の保育士から「説明をしている先生の方を向くように」と注意されます。目的地の公園は、園を出ると見えている公園ですが、道中、1つ道路を横切るので道路の渡り方の注意を行っています。「右を見て、左を見て手を挙げて渡りましょう」と保育士が手を挙げることを示しながら伝えます。整列をして「矢向1丁目公園」に向かいます。目的地は、園から4つ角を挟んだ斜め向かいに位置し、交差点に差しかかり、出発前に教えられた手順で、保育士と調査者が道路の中央に立つと、子どもたちは、「右を見て、左見て、よし！」と言って順に渡って行きます。5分弱で公園に到着し、わおわお保育園の園庭も広いですが、この公園は平坦でかなり大きく、周囲には桜を始めイチョウの木など四季折々の樹木が直截され、広い運動場が設けられ、滑り台・ブランコ・ジャングルジム・鉄棒・水飲み場が設備された公園です。10月に実施される園の運動会はこの公園を借りて行うそうです。公園には既に他園の園児が2組ほど遊んでいます。保育士は子どもを少し離れた場所に誘導して点呼を始め、25名を確認しました。始めの遊びは、帽子取りゲームを行い、保育士から説明を受

けて帽子を裏返して2色に分け、あごひもを帽子の上側にします。赤12名と白13人の組…と成るはずが、赤は10組です。(あれ?でもいいか!) さぁスタートです。赤がオニさん、白が逃げます。みんな張り切って喜々とし、保育士も交じって追いかけて組になって走ります。さすが5歳児さん、逃げるも、追いかけるのも早い! その中の追いかけての2人がぶつかって転び、1人の子どもが泣き出し、保育士が駆けつけて来て様子を聞いています。大丈夫な様子だったので再開し、しばらくして保育士がみんなを呼び集め、水分補給をします。子どもたちは寒さを吹き飛ばすかのように顔を赤く染め、「ハァー、ハァー」と肩で息をしながら水飲み場に向かい、順に並んで飲み口から水の勢いを調整しながらゴクゴク飲みます。順番が待ちきれず、横についている蛇口から飲んでいる子どももいました。飲み終わると次は自由遊びです。公園周囲の木の下で落ち葉や小枝を集めて何かを始めようとしています。見ていると積み上げた小枝の山に少し長めの棒を手のひらで竹とんぼでも飛ばすかのように枝を回しています。様子から火を起こしている格好なので、「何をしているの?」と尋ねてみると「火を起こしているの!」と返ってきました、一寸ビックリです。今度は別の子どもがその中に石ころを入れます。「焼き芋を作るの〜」と言い、原始の頃の火の起こし方を誰から教わったのでしょうか、子どもの発想の豊かさと「遊び名人」を感じました。すばらしい表現力が培われています。

丁度その時、3歳児の子どもたちが到着しました。木の下に子どもたちは集まり、保育士から話を聞きます。3歳児は「氷鬼」の遊びを始めます。保育士2名と帽子を白にした子ども4人が鬼になり、鬼になって逃げますが5歳児と違って逃げ足が速くありません、たちまち捕まって「氷」にされてしまいます。遊んでいる内の1人の子どもに嘔吐があり、氷鬼はストップです。保育士がビニール袋を持たせて吐いても大丈夫のように促しています。他の子どもたちが心配して近づいて来ましたが、万が一を考え、保育士が傍に来ないように訴えますが、直ぐに子どもたちは近づきます。別の保育士と調査者も協力して子どもを少し離れた所へ誘導しました。その間に、もう1人の保育士が園に連絡を入れ、主任が「ノロセット」を持って駆けつけてきました。子どもは、吐瀉物にヨーグルトが混じっていたとのことで朝の食事が走ることで戻したのかもしれませんが。子どもの安全第一にした咄嗟の保育士の判断と速やかな連絡、連携体制を垣間見せていただきました。

<食事>

【3歳児・4歳児・5歳児】

わおわお保育園には、園舎の中央に壁に格納される舞台を備えた日当たりの良い大きなホールがあり、一時保育や子育て支援センターのエリアになっています。このホールは幼児の生活発表会等にも活用されています。通常は、ランチルームとして使用し、3歳児～5歳児が異年齢にてバイキング方式で給食が行われています。食事では、5歳児または4歳児が3歳児のサポートをしています。テーブルの配置では3歳児～5歳児がそれぞれバランス良く着席して食事を行うよう、年度当初にねらいとして指導し、年長児は目的をよく理解して年下の子どものお世話をする意識を持ち、席を替わって座る等、サポート役を果たしています。自然にバランスの良い配置体制ができていのも日頃の異年齢交流での成果が出ている表れです。配膳用のテーブルがホールの窓側と舞台側の両端に設けられ、5歳児の給食当番がそれぞれの場所に1名

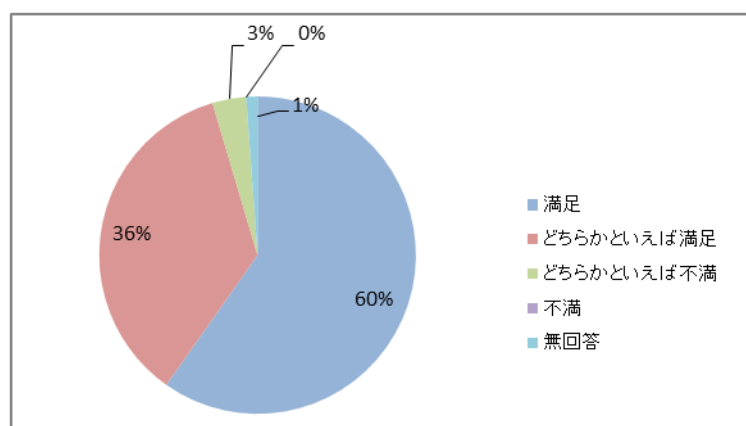
ずつ、マスク、バンダナ、エプロンを着用して保育士と一緒に盛り付けをします。子どもが順に並び、列の横のテーブルにはご飯の盛り付けサンプルが置かれ、初めに給食当番からみそ汁を盛りつけてもらい、味噌汁をテーブルまで各自で運びます。一つひとつ並び、今度はサンプルを見て自分のご飯の量を決めてよそってもらいます。続いてワンプレートにおかずを盛りつけてもらい自分の席に運びます。おかず、ご飯を席に置くとプレートを決められた場所に各自で戻します。(なぜ食事前にプレートを戻すのか不思議に思い) 食事ではホールに子どもと職員合計で81名にもなり、食べる時間を含めプレートの回転等を考慮して対処・工夫がされていました。厨房はホールの横に設けられ透明のガラス張りから中が見え、食事中は明け放たれており、子どもの喫食状況も確認ができます。併せて、アレルギー児用、宗教食(代替食)での対応も受け渡しは極めて明解になっています。テーブルにそれぞれ食事を運ぶ際は、年長児が年下の子どもの食事を運び、特に、汁物の運びには手を添えてゆっくりと歩を進めてヘルプする等、実に微笑ましい姿が見られました。全て揃うと、順に5歳児の声掛けで「いただきます!」と手を合わせて食べ始めます。調査者が同席したテーブルでは、5歳児、4歳児から「おじいさん!」と声がかかり、「私は〇〇、5歳」、「4歳〜い!」と、自分のことの紹介に始まり、体験したこと、家族と遊園地に行ったこと等、次々に話題として話をしてくれて、「おじいさんも遊園地に行った?」等、質問を交え話に夢中で食事が進みません。「食べようね!」と声をかけると一寸進みますが、待つ愚に話に戻る楽しい食事風景です。保育士が気にかけて注意に入って下さり、「さぁ遅くなるわよ!」、「集まれ集まれして食べましょう!」と促してくれますが、やはり話が楽しいようで尽きません。わおわお保育園の子どもたちは、とても人懐っこく明るい元気な子どもたちがいっぱい、素直で伸び伸びと心身共に成長している姿に触れることができました。

【 わおわお保育園 利用者アンケートの特徴】

実施年度 / 評価項目手法	平成 30 年度 / 横浜市版
アンケート調査対象	利用者家族 配付世帯数（世帯数 118 ）
有効回答数	87 世帯
世帯総数に対する回答者割合（%）	74%

0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
9 世帯	23 世帯	20 世帯	14 世帯	9 世帯	12 世帯

* 回答があった利用者満足度の内訳（%）



●利用者アンケートの特徴として、『満足』と『どちらかといえば満足』を合わせて（以下、「ほぼ満足」という）見ると、全ての項目は「ほぼ満足」は72%以上を示しています。『満足』の高い項目では、「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいる」かについては、『満足』は67%を得ています。また、60%以上の『満足』を示している項目は、「話しやすい雰囲気、態度である」かどうかについて（60%）が挙げられます。「ほぼ満足」での高い項目では、「園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供」についてが、満足54%、どちらかといえば満足44%、どちらかといえば不満1%にて、ほぼ満足は98%となっています。また、「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいる」かついても満足67%、どちらかといえば満足30%、どちらかといえば不満3%であり、ほぼ満足は97%を得ています。「給食の献立内容」については、満足57%、どちらかといえば満足39%、どちらかといえば不満3%にて、ほぼ満足は96%を得、「あなたのお子さんが大切にされている」かについては、満足57%、どちらかといえば満足38%、どちらかといえば不満2%であり、ほぼ満足は95%を示しています。

●アンケートの自由記述からは、各年齢の保護者から「園の設備、先生（保育士）のハード・ソフトの面で120点」、「これからも園が末永く運営できるように応援したい」、「安全に愛情を持って保育してもらっている」、「安心して預けられるし信頼している」、「働く親のサポートとして、非常に助かっている」、「大きな園なので心配だったが、細かな対応や配慮に感謝し、かつ満足している」、「今後も末永くお付き合いしていきたいと思える地域の保育園だと思う」、「体調不良やアレルギー等、本当に柔軟に対応してもらっている」、「いつも先生（保育士）方が笑顔で働いて、見学した際にその印象が強く、ここに決めた」、「今の園長先生に変わり園の環境が少しずつ良い方向へと変わっていると思う」、「園長先生の教育方針にとっても共感でき、園で子どもたちがとても楽しそうに遊んでいる姿を見て、わおわお保育園に入園させて良かったと思っている」、「保育士が子どもを大切にしてくれているのが十分に伝わってくる」、「子どもも担当の先生（保育士）のことが大好きで嬉しい」、「保護者からの要望に対し、柔軟に受け入れようとする努力を職員全員がしている印象」、「実現の可否含めてよく検討されている。新しい保育への取り組みも、積極的に実践されているのに好感が持てる」、「いつも良くしてくれている」、「本当に頼りにしている」、「子どもだけでなく、親にも寄り添ってくれている」等、多くの喜びと感謝の意見が挙がっています。保育園は明るくあたたかい良い園であり、子どもの教育もしっかりしてもらい、感謝しているという声もいただいています。

●『不満』および、『満足』が低い項目では、「送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換について」が挙げられ、満足26%、どちらかといえば満足46%、どちらかといえば不満21%、不満6%、その他1%であり、『満足』に関しては低い数値が目立ちます。また、「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについて」では、満足29%、どちらかといえば満足59%、どちらかといえば不満8%、不満2%、その他1%であり、「年間の保育や行事についての説明」は、満足38%、どちらかといえば満足51%、どちらかといえば不満8%、不満2%、その他1%という結果になっています。

●アンケートの意見では、面談の時間が以前より長くなるのであれば、事前に知らせてほしい、園の行事の日時や時間帯は1~2ヶ月前に知らせてほしい、トイレトレーニングについての情報交換や今後の具体的な計画をもう少し聞かせてほしい、他、クラスの活動や遊びについて、園外活動における要望、園のおもちゃや教材について、外部からの不審者侵入対策、施設設備について等、意見が挙がっており、また、送迎時のお子さんの様子に関する情報交換についてや、園で過ごす雰囲気について等、様々に意見をいただいています。それぞれの保護者からの意見、要望等について受け止め、利用者の理解や協力につなげられるよう、日々の振り返りと見直しを図る機会を設け、園の良い点を生かし、継続してより良い園作りへの取り組みを期待いたしております。

●保育園の基本理念や基本方針については、よく知っているが36%、まあ知っている56%、どちらともいえない6%、あまり知らない2%、まったく知らない0%という結果になっています。しかし、それらの賛同については、賛同できる66%、まあ賛同できる22%、どちらともいえない3%、無回答8%にて、88%がほぼ賛同を示しています。日々の保育の根幹となる保育方針、保育目標は機会あるごとに周知を図っていますが、より一層の周知・理解を促す工夫が期待されます。

●総合的に、『満足』は60%の支持を頂き、『どちらかといえば満足』は36%、『どちらかといえば不満』3%、『不満』0%、『無回答』0%にて、サービスの提供について、96%が「ほぼ満足」していると捉えることができます。

利用者調査項目（アンケート）

わいわお保育園

【保育園の基本理念や基本方針について】

※上段%、下段人数で示しています

問 1

利用者調査項目		よく知っ ている	まあ知っ ている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答
1	あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか。	36%	56%	6%	2%	0%	0%
		31人	49人	5人	2人	0人	0人
2	あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。	賛同できる	まあ賛同できる	どちらともいえない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答
		66%	22%	3%	1%	0%	8%
		57人	19人	3人	1人	0人	7人

【保育園のサービス内容について】

問 2 入園する時の状況について

		満足	どちらか といえば満足	どちらか といえば不満	不満	その他	無回答
3	見学の受け入れについては	56%	29%	1%	0%	13%	1%
		49人	25人	1人	0人	11人	1人
《その他意見》		・見学はしていない。(7) ・時期がギリギリで見学できませんでした。 ・遠方の為、していないので不明。 ・見学していないので不明。 ・行っていない。					
4	入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	43%	48%	1%	0%	8%	0%
		37人	42人	1人	0人	7人	0人
《その他意見》		・不明。					

5	園の目標や方針についての説明には	52%	44%	3%	0%	1%	0%
		45人	38人	3人	0人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・園長が変わるのでその都度考え方が変わる！ ・覚えていない。 					
6	入園時の面接などで、お子さんの様子や育成歴などを聞く対応については	50%	40%	8%	0%	2%	0%
		43人	35人	7人	0人	2人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・特になし。 ・覚えていない。 					
7	保育園での1日の過ごし方についての説明には	45%	48%	6%	1%	0%	0%
		39人	42人	5人	1人	0人	0人
《その他意見》							
8	費用やきまりに関する説明については（入園後に食い違いがなかったかを含めて）	44%	47%	6%	1%	1%	1%
		38人	41人	5人	1人	1人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・入園前に決まっておらず、入園後に直前になって指示された事も多く戸惑った。 ・特になし。 					

問3 保育園に関する年間の計画について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
9	年間の保育や行事についての説明は	38%	51%	8%	2%	1%	0%
		33人	44人	7人	2人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・詳しい日程が出るのが遅い。 					
10	年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	29%	59%	8%	2%	1%	1%
		25人	51人	7人	2人	1人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・わからない。 					

問 4 日常の保育内容について

「遊び」について

		満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
11	クラスの活動や遊びについては (お子様が満足しているかどうか)	52%	44%	3%	1%	0%	0%
		45人	38人	3人	1人	0人	0人
《その他意見》		・公園には行かず、毎朝、毎夕方園庭ばかりで飽きる。					
12	子どもが戸外遊びを十分しているかについては	57%	36%	6%	1%	0%	0%
		50人	31人	5人	1人	0人	0人
《その他意見》		・公園には行かず、毎朝、毎夕方園庭ばかりで飽きる。 ・天候もあるが、もう少し外で遊ばせてあげたい。					
13	園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に 使えるように置いてある、年齢にふさわしいかなど)	59%	35%	3%	2%	1%	0%
		51人	30人	3人	2人	1人	0人
《その他意見》		・古いものも多く、口によく入れる年齢のクラスのもの除菌しているのかと思う。 ・人数に対して少ないと思います。 ・自由に使えるが分類もされておらず、衛生的にいまひとつな感じである。					
14	自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動に ついては	45%	38%	14%	2%	1%	0%
		39人	33人	12人	2人	1人	0人
《その他意見》		・園外への散歩の活動が少ないように感じる。手を繋いで散歩に出掛ける活動を増やしてもらいたい。 ・もう少し増やしてほしい。					
15	遊びを通じた友だちや保育者との関わりが十分もて ているかについては	55%	37%	7%	0%	0%	1%
		48人	32人	6人	0人	0人	1人
《その他意見》							
16	遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みにつ いては	51%	38%	8%	2%	1%	0%
		44人	33人	7人	2人	1人	0人
《その他意見》		・不明。(2) ・食育等は良いアイデアだと思う(野菜に触れたり、調理に参加するなど) ・暑くない時期に水遊びでびしょ濡れになっていたりする。					

「生活」について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
17	給食の献立内容については	57%	39%	3%	0%	0%	0%
		50人	34人	3人	0人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・季節のものが取り入れられている。 ・もう少し具材を増やしてほしい。 					
18	お子さんが給食を楽しんでいるかについては	53%	39%	7%	1%	0%	0%
		46人	34人	6人	1人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・味付けがあまり美味しくないみない。 					
19	基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	51%	38%	9%	1%	0%	1%
		44人	33人	8人	1人	0人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・トイレトレーニングについての情報交換や今後の具体的な計画をもう少し聞きたい。 ・正しいやり方を教えている感じはない。 					
20	昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	48%	38%	13%	1%	0%	0%
		42人	33人	11人	1人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・他の子がうるさく、眠れない時もある。お互い様だとは思いますが、できれば改善してほしい。 					
21	おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	44%	36%	10%	3%	6%	1%
		38人	31人	9人	3人	5人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・まだ行ってない。(2) ・おむつはずしはまだの為。(2) ・まったく気を遣っていない。 ・入園時既に取れていたのでは不明。 					
22	お子さんの体調への気配りについては	52%	37%	10%	0%	1%	0%
		45人	32人	9人	0人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・幼児クラスでも細やかに見ていただき助かります。 ・看護師さんが本当にみているのか？と思う事が多々ある。 					

23	保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	54%	31%	9%	4%	2%	0%
		47人	27人	8人	3人	2人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・今現在ケガをしていません。 ・報告がない事も多い。 ・先生方が忙しく伝達漏れがあった際には自宅へ電話をくれ、報告をちゃんとしてくれる。 					

問5 保育園の快適さや安全対策については

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
24	施設設備については	53%	43%	1%	2%	0%	1%
		46人	37人	1人	2人	0人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・よく鍵が壊れる。 ・2階から落下する小さいおもちゃは大変危険。 					
25	お子さんが落ちついて過ごせる雰囲気になっているかについては	49%	37%	12%	1%	1%	0%
		43人	32人	10人	1人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・よく鍵が壊れる。 ・2階から落下する小さいおもちゃは大変危険。 ・掃除はあまりされていない。埃が目立つ。 ・なかなか静かにできない子と一緒に入ると難しいと思う。 					
26	外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	43%	44%	10%	0%	3%	0%
		37人	38人	9人	0人	3人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・接触の問題だと思うが、時々鍵が施錠されていない。 ・対策についてあまり知らない。 ・常にあまり感じる。男性が少ない。 ・受付を通る時、見ていないと思う。 					
27	感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	48%	45%	5%	1%	1%	0%
		42人	39人	4人	1人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・お手紙で教えてもらえるが流行になるまで、あまり情報が目立って出てない。 					

問6 園と保護者との連携・交流について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
28	保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	47%	45%	8%	0%	0%	0%
		41人	39人	7人	0人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・1時間は少し長かった。また時間を以前より長くするならば事前に知らせてほしかった。 ・もう少し定期的にしてもらえれば嬉しい。 					
29	園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	54%	44%	1%	1%	0%	0%
		47人	38人	1人	1人	0人	0人
《その他意見》							
30	園の行事の開催日や時間帯への配慮については	49%	41%	5%	4%	1%	0%
		43人	36人	4人	3人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・1～2ヶ月前に知らせてくれると助かる。 					
31	送り迎えの際、お子さんの様子に関する情報交換については	26%	46%	21%	6%	1%	0%
		20人	36人	16人	5人	1人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどない。 ・何も言われない時もあり、不安になる。 ・日中みている先生が不在だと引継ぎがされていない。 ・先生に会えない時がある。 					
32	お子さんの関する重要な情報の連絡体制については	41%	52%	5%	2%	0%	0%
		36人	45人	4人	2人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・不明。 					
33	保護者からの相談事への対応には	47%	46%	7%	0%	0%	0%
		41人	40人	6人	0人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・とても良い！！ 					

34	開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、 残業などで迎えが遅くなる場合の対応については	56%	37%	0%	0%	7%	0%
		49人	32人	0人	0人	6人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・いつも本当に良く対応していただき感謝しています。 ・迎えが遅くなる事があまりない為。 ・機会がまだないのでわからない。 ・やむをえない遅延の時、丁寧に対応いただき助かりました。 ・遅くなった事がないのでわからない。 ・不明。 ・時間外を利用した事がない。(2) 					

問 7 職員の対応について

		満足	どちらかとい えば満足	どちらかとい えば不満	不満	その他	無回答
35	あなたのお子さんは大切にされているかについては	58%	38%	2%	0%	1%	1%
		50人	33人	2人	0人	1人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・先生が少ないので、先生の所に行かないとかまってもらえない。 					
36	あなたのお子さんが保育園生活を楽んでいるかについては	67%	30%	3%	0%	0%	0%
		58人	26人	3人	0人	0人	0人
《その他意見》							
37	アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの 配慮については	43%	37%	1%	1%	17%	1%
		37人	32人	1人	1人	15人	1人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟に対応していただき感謝です。 ・アレルギーがあるかまだわからない為。(2) ・特にアレルギー等なし。(5) ・どのように対応しているのか知りません。 ・不明。(5) ・周囲にはいないのでわからない。 ・アレルギー、障害がない為。 					
38	話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	60%	37%	3%	0%	0%	0%
		52人	32人	3人	0人	0人	0人
《その他意見》		<ul style="list-style-type: none"> ・忙しそうで話しかけづらい先生もいます。 					

39	意見や要望への対応については	46%	44%	8%	2%	0%	0%
		40人	38人	7人	2人	0人	0人
《その他意見》		<p>・十分すぎる程です。皆さんが疲弊しない程度で大丈夫です。 頑張ってください！</p> <p>・出した事がない。</p> <p>・聞いてはいただいています。</p> <p>・基本的には通らない。</p>					

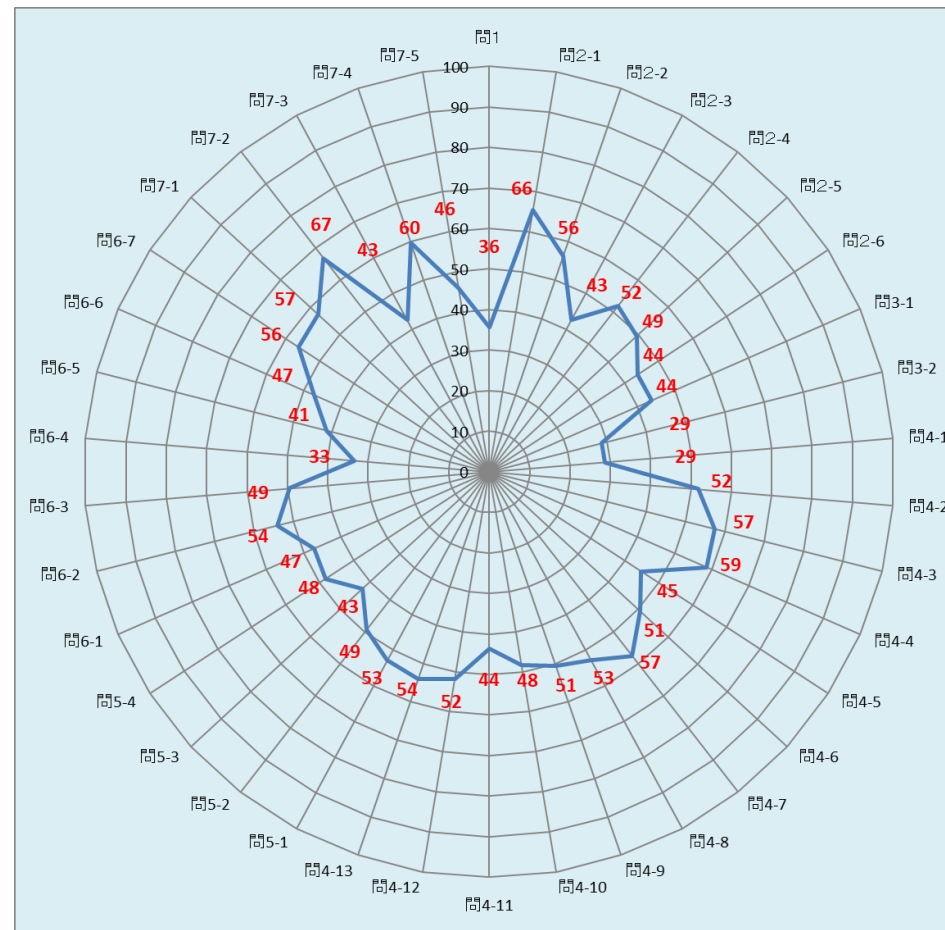
問8 保育園の総合評価

		満足	どちらかといえ ば満足	どちらかといえ ば不満	不満	無回答
40	総合満足度は	60%	36%	3%	0%	1%
		52人	31人	3人	0人	1人
《その他意見》						

利用者家族アンケート調査結果（設問別「満足度」総合）

（注）レーダー数値は設問別「満足度」回答率（小数点以下は四捨五入）

調査対象園舎： わおわお保育園	横浜市鶴見区矢向 1-4-32
回答世帯数：118 世帯中 87 世帯<0 歳児（9 名）、1 歳児（23 名）、2 歳児（20 名）、3 歳児（14 名）、4 歳児（9 名）、5 歳児（12 名）>	
定員：150 名 回収率：74%	調査期間：2018/10/23 ~ 2019/2/20



事業者コメント

施設名： わおわお保育園

園長： 遠藤 秀江

<評価に取り組んだ感想>

保育士としての経験が浅い保育士が大半を占め、総合的に保育所運営の基本や仕組みを知らずに現場に立っているという状態でしたが、受審をすることによって目の前の保育だけではなく、保育所の保護者の皆様はもとより、地域やさまざまな関連機関との協力のもとに支え、支えられているという保育所の役割を深く理解し、さまざまな視点から重要性をより感じる事ができたのではないかと思います。

また、保育に関しては新人ならではのフレッシュさと意欲に満ちているのが、当園の良さであります。また、その良さも一人ずつの保育観が重要ではなく、保育所保育指針を最大の基盤と置き、そこから派生された園の方針や園ビジョンにチーム一丸となって取り組むことの大切さを改めて理解できたのではないかと思います。

毎年、法人で研究発表会を実施しておりますが、今年度の当園のテーマは「同僚性」について研究しています。受審にあたり、その「同僚性」もさらに磨く機会となり、園運営の仕組みを知っている者が、知らない者に伝承し、相互的に理解を深め合う場面も多く見受けられました。「子どもたちのために」という一番重要な思いも、言葉や取り組みによって形にすることもでき、保育士にとって飛躍的な受審期間だったのではないのでしょうか。今回の受審は自分たちを客観的に見る「自己評価」の重要性や効果を実感し、これからの園ビジョン達成に向け、大きな活力となりました。

今後も、子どもたちのため、保護者の方々のため、地域のため、社会のために職員一同、精進してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

<評価後取り組んだ事として>

1. マニュアルの見直し
2. 保育環境の見直し
3. 園内研修の強化